



村小だより

令和元年5月14日発行

子どもを導く 車の両輪となって

校長 鈴木 正美

令和時代が始まり、146年目となる創立記念日(5月6日)も過ぎ、いよいよ村上小学校の教育活動が本格的に進められる時節を迎えています。249名の子どもたちも、すっかり新しい学年や学級などに慣れ、元気に活動する様子が随所に見られるようになりました。どの学年も明るいあいさつで一日がスタートしており、いい感じです。保護者・地域の皆様からのご支援の賜と感謝しています。

さて、今週16日(木)にはマラソン大会が中州公園で予定されています。完走に向けた自分自身との戦い、よきライバルとの競い合いをとおして、心身をたくましく鍛えることや互いに励まし合うことの大切さ、すばらしさを学んでほしいと思っています。併せて、今年も村小っ子の「本気な姿」に、大人も子どもも、心が動く大会になることを期待しています。

若葉茂る5月、一人一人の子どもに目を向けながら、「村上小の教育」を一步一步、着実に進めていきたいと考えています。「家庭と学校は車の両輪」の意味するところをご理解いただき、ご協力、よろしくお願ひいたします。

<学校説明会(4/26)での校長の話から(抜粋)>

- ◆ 「学び」の入門期である小学校が担う重要な役割は、学習して「分かるって楽しい、できるようになって嬉しい」というように「学ぶ楽しさの実感」であると考えています。この気持ちが育まなければ、次の段階での「学ぶ意欲の向上」等につながらないと考えからです。
「学ぶ楽しさ」とは、表面的な面白さや楽しさではありません。何かを成し遂げた喜びがもたらしたものでなければなりません。そのために私たちは、発達段階に応じた課題に向かい、一人一人や集団で、精一杯の力を尽くして解決することを大切に授業を積み上げることが重要であると考え、日々の実践に努めます。
- ◆ 今年度のグランドデザインです。今年一年、村上市の教育の目標や村上小の教育目標の具現に向け、どのようなことを重点にし、どのような取組を大切にしていくか等の学校経営、学校運営の構想を示したものです。教育目標の自治三訣が意味する三つの力「自ら生きる力」「共に生きる力」「よりよく生きる力」の具現を目指し、知・徳・体ごとの重点達成を目指した具体的方策について、全職員の英知を結集して、教育活動の充実に努めます。
- ◆ 最後に、例年お願ひしている「子どもの前で学校批判、担任批判をしないでほしい」ということです。子どもたちは、大好きな家族を頼りにしています。また、学校や担任のことも少なからず、頼りにしているものです。自分が頼りにしている人が、もう一方の頼りにしている人を批判するのを見聞きすることは、「子どもの心を迷わすことにつながり、心が不安定な状態になることが多い」のです。私たち教職員も、子どもたちのために精一杯努めますが、いたらない点もあるかと思ひます。そのようなときには、是非、電話や面談等の方法で、直接お考えを伝えてください。よろしくお願ひします。

※グランドデザインは村上小のホームページでご覧いただけます。